

保育座談會

「觀察」について――

時 日、九月十八日午後三時より。

場 所、東京女子高等師範學校附屬幼稚園。

出席者、倉橋教授、堀主事、及川、新庄、菊

池、徳久、白根、村上、神原保母。

神原 今日は「觀察」に就いて話をお願いします。最初

に――これ迄に度々御意見は何つては居ります

が――「觀察」は如何ように扱ふべきか、を仰つて下さい。

倉橋 堀さんの領分だよ。「觀察」の扱ひ方はまだまだ問題になつて居るね。

堀 「觀察」の爲め時間を特設してゐるからその材料をきめんけりやならない。それで教案を作つ

たりして居る。

倉橋 觀察要目などを作つて居るのが、觀せる物で許り定つて居る。そして教育としての觀察がその物の何處に、何ういふ風に發輝されるかを明らかにしてゐない。材料なしでは觀察出來ぬが、物を用意するだけで「觀察」とするのは。

堀 本當をいへば、觀察の精神が分つて居らないんだよ。

倉橋 さうだ。小學校令の理科教授要旨には自然物……」

堀 それはね通常の天然物及自然の現象に關する知識の一斑を得しめそれ等相互並に人生との關

係を理解せしめ兼ねて観察を精密にし自然を愛するの心を養ふを以て要旨とすといふのです。

倉橋「兼ネテ……」からをよく知つてゐるんだ。兼

ネテ観察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルコトヲ……」

この後の事項が幼稚園での本體になるんだ。始めの事項無くして後の事は出来得ない。だから手段としてやるのである。學校と幼稚園との違ひは後と前のエンファサイズの置き方の違ひである。「ソノ観察ヲ精密ニシ」はまた細かに考究の必要はある。理想的に云へば、幼兒の持つ觀察的興味の範圍、程度が研究されると其處から計畫が立つね。

堀 それが研究されないし、小學校の理科の頭が

あるから、手つとり早く、材料で定めてしまふ。

倉橋 觀察の要目を並べる時に、うまい工夫はない

かね。觀察方法とか、目的の論の方から、材料

が主でない並べ方は出来ないかね。

堀 ところが、物でなく、原理で要目をあげてお

くと、觀察を抜きにして説明に落ちる事が起る。

倉橋 原理つて、目的でせう。

「物に、堅い物、軟いもの、甘いもの、酸っぱいものあり」といふことを経験させたいといふ風に要目が出来て居たら、悪くすれば「これはあまいでせう」と文學的にしてしまふが、物を持ち出せば觀察の時間を特設しても、逆にはあやまりはない。特設の時間をとるからあやまりが出るので特設しないぶんにはあやまりがすくない。不用意の中に用意あれだからむつかしいよ。

堀 目的を擧げるのは小學校では失敗して居る。

果物の種子は種族繁殖のために散布する事を教へるのに、風で散布するもの、動物に食べられて散布するものには何々と小學校令の前段を中心にして行くわけだが、葡萄の種は……と云つても味をみさせるでもない。そして甘いですか、

酸っぱい感じがしませんか、云つて御らんなさ
いといふ風になりがちです。

倉橋 モンテッソリ女史の感覺練習のための工夫
は、心理學的立場から入つたものですが、感覺
練習に都合のよい狀況をこしらへた點を離れる
と一種の觀察だ、あの特別なものに持つて行か
ないで、知覺の範圍におけばね。

堀 特別のものを使はないで、八つ手や朝顔の葉
を撫でさせるといふ風なのでいゝんだ。同じ葉
でも裏と表とでは違ふ、色彩感覺にもなる。覺
えておきなさ「いといふのでは觀察は死んでし
まふんだが、感覺器關を働かせば練習になる。
何にでも感覺器關を働らかして遊ばせれば澤山
だと思ふ。大人の知識を授けようとするから自
然觀察でなくなつてしまふ。風車を材料として
斯々の物を觀察せしむぢやない、風車をこしら
へさせそれで遊ばせれば、それで風車の働さが

分る、體驗にもなる。

倉橋 其處だ、實際をやられる時に、物で定めた案
があるとなん事になる恐れがある、理論は分
つて居る。物を出して要目を作るから知識化す
る。

堀 目的で要目を作ると却つて——

倉橋 觀察の用意としては、物を持つて來なくちや
ならん。たゞ苦になるのは觀念教育になる、知
識化することを恐れる。

堀 そこで實際家諸君は如何やつてるの。

及川 何かにくつつけてやつて居ります。ことさら
に觀察らしくやる觀察はあまりする時がありま
せんね。

堀 何だつて。

及川 物が子供の中に入ると單なる觀察だけではな
くなると思ひます。

倉橋 だから寫生してる時は觀察が一番出來てる、

描くとなれば自己訂正も行はれる。

及川 観察の意味の入つた寫生だからといつても「斯うしなさい」と云はなくても良いと思ひます。例へば朝顔の葉が三つに分れてゐるのは幼児にはよく會得出來てゐても繪としてかきあらはす事の出來ない子供があるのですから、それでよいと思ひます。

堀 技術の方で出來ないと、氣がつかなくて出來ないのがある、それは先生の方で一寸注意する。観察は畫だけではいけない、動作にも、味にも出せる。

及川 參觀の方からよく尋ねられますと、私は、観察だけ別に取り出してやつてはゐないと申すんです、堀先生に濟まないんですが、やつてゐませんもの。

堀 すまなくないよ。観察をやつてゐないんぢやない。朝顔を剪り紙するのは手技から見れば、

剪り紙だが、自分でやつて居る子供には觀察になつて居る。象の模型を觀ながら粘土をするのはやはり觀察だ。世間の人は觀察は自然物に限つて、動物・植物の知識を授けるものとしてゐるが、私は觀察は凡べてに含まつてゐると思ふ。記憶畫とか談話は別だが、觀察を離れた寫生は存在せぬ。

及川 觀察の項目などは、何々をしました、と後から拾ひあげられるのが本當ぢやないでせうか。

堀 さういふ場合もあらうけれど、手技、遊戯と同様に觀察材料はこれ／＼ときめるので無理がくる。

倉橋 つまり、幼稚園で實際としては、保育項目中にある他の生活様式を表す言葉と違ひ、教育目的の言葉だから、目的に到達するには種んな場合がある。觀察を生活中の位置から見ると三つの場合がある。全くの自在の中に觀察した場合、

これには機會捕捉でやる。二は、子供は活動本位で、見たい、描きたいが先に出る場合がある。ところでこの時は當然觀察が行はれる。この二つだけで満足出來ようか。立案して觀察させる必要はないとする場合は、第三の案を立てずとも隨意に觀察させ得る自信と第二の場合の自信があれば差支へない。子供は自らの生活中で觀て居ります。が物に即して居る方の態度は極く大まかなものです。製作の方だつて、表現活動が主になると非藝術的になるから、觀察のための或る方案を必要としないでせうか。狭い意味の場合です。

及川 材料が珍らしい時にはみせたいと思ひます。

倉橋 その方案を立てる場合を分けると、特殊な見物、尾長鳥とか、蟻の巢とか、物の方から機會を捕へる必要あるもの、外に、もつと觀察を觀察らしく發展させる方が必要ではないか。生活

や表現の中だけでは物足りないといふものが。

及川 そんなものがあるでせうか。珍らしくないので。

堀 みなれた物を正確にみせとく必要がある。

倉橋 割註を、正確にみせておかねばならぬのは、物の方の要求としないで、子供の生活上からと。

及川 ボーンとして觀せるべきものをみのがせて濟んで來ましたのね。

倉橋 根本は、一體全體、表現主義の人、藝術家、僕のような興味本位でゆく人と、細かに觀る性質の人と、經驗する人で違ふ。理學者のお父さんなら、一寸來いと呼びつけては觀察のための觀察をさせるでせう。

堀 ある程度迄は、その方を發達させて來なくちやならなかつた。物を正確に觀るといふ態度、習慣、能力が出來て來なけりやいけない。何時でも藝術家はだ、或は觀察専門家はだになつて

も困る。それ許りに押し進んでゆくのではかたよつてしまふ。

及川 すべき物をしないで來た氣もするし、しなくともよいような氣持もあります。

堀 詩人的傾向の子供には、もつと科學的にしてやらなくちや。又こちらの子供は自然科學者風だから伸してやらなけりやと考へる。

及川 これは何うしても見せてやりたいといふ風に仰つていたよきたい。

堀 物によつていふのではない。
及川 觀せるのぢやなくて。

新庄 觀ない子供には何うすればいゝでせう。

堀 外からの刺戟の強いものを眼前に提出するか
幼兒の好奇心をそゝるものを提出するか等して
成るべく事物を觀る習慣をつけねばなりません
ね。

及川 葡萄を描きなさいといはれれば、そのために

觀る、それでよろしいんぢやないでせうか。

堀 觀るために觀るのと、み方が違ふ。

倉橋 先の、第三の場合が、どうも必要です。それをやる中で、何處までやるかむづかしいです
ね。そこが保育方法の研究を待つ所。

及川 子供の力と先生の力ですわね。

倉橋 さうなりますわね（及川保母の思ひ入れに合
鍵を。一同笑、）

堀 子供の力を本體とす可きだ。子供の感覺器官
に訴へて、自身に經驗させる。子供のいやがる
ものはいけない。觀察の時は先生は無言である
くらゐでなくちやいけない。先生は材料を提供
して、觀察し易いように子供をし向けてやり、多
少の導きを以て注意を集めてやる程度でいい。
及川 無言ですけれど、少しは解剖しなくちやなり
ませんね。

倉橋 其處に疑問が出るんだ。假りに葡萄の觀察を

するときには、勿論食べたいが一番だけれども、先生の方で、果物にいろんな形があることに注意を促したいために先に食べさせるとなく、観察要點の指導はいらんかね。

堀　こと／＼しい観察要點の指導はいらんかね。

倉橋　目の前において暫くお預けか。

堀　科學的心理的に云へば食ひたいが先です。此處を特に観察させたいとねらつて居る時は先生が引つ張らなくちや。

倉橋　葡萄を食べる時の観察。みせようと思ふために食べさせた。食べるといふ經驗を観察させる時に、何處に力點を置きますかね。おいしかつたでせうの間に對しては、あいまい、おぼろげなりとも「おいしかつた」だけでは主觀の言葉だ、もつと客觀化された答がなくちや。

及川　小學校風にいへば、整理してやるんですね。倉橋　うまかつたね。何んな味でした？　つていへ

ば觀察になつて来る。この點をはつきりすれば、幼稚園で何處迄、觀察するかが具體的になる。

堀　一つ實驗しなさいよ。

(先刻來一同の圍む卓上に葡萄が具へられてある、話中に上つたわけ。實驗とはこの葡萄を味ふこと)

及川　ぢや皆さん、堀先生に整理していただきますう。

(こゝ暫く實驗中)

及川　動植物についてはいろ／＼扱へますけど、人事的方面は殆んど觀察だけですな。

倉橋　さう。つまり、子供は人事物は用途が興味を中心だから。動きが主になりますからね。カナ、鋸など大工と一緒に居ないのぢやないが、仕事に興味が集つて居るせいで分らない。話が擴がるから葡萄でやらう。

倉橋 食べてみて、酸っぱかったと云へるだらうか。

堀 甘いと云ふね。酸っぱいはいへない。

倉橋 複合の味はいへない。葡萄が甘いと云つた時に、さうといつて、砂糖をなめさせる必要ありとはしないかね。そして比較による経験を反省させる。

堀 小學校でやつて居る。むつかしい。

倉橋 問題は、ナールホド違ふ、の感じをどこ迄言はせるか。砂糖をなめつ放していゝものだらうか。

堀 違ひは分る。

倉橋 違ひが分りやいゝ。

及川 違ふといへぬかも知れぬ。

堀 食べた時に、まだ注意させることがある。

及川 幼稚園で葡萄の種を吞んで來たつて事になり
ますよ。

倉橋 種なし葡萄さ。

堀 本當に葡萄を食べさすといふぢやなしさ。葡萄は柿と何處か違ふ、皮とぬる／＼の間にうま

い汁がある。ぬる／＼で種が包まれてゐる。子供は、まだ種とぬる／＼とが分けられない。

倉橋 種、そこからはいゝことにして、その次に思ふのは折角食べた。其處で、僕は、食べたといふそれまでの交渉をして來たんだから、恰好は何うでせう」とさいてよいと思ふが。

堀 いゝさ。

倉橋 これを、お預けしといて先に聞くのは。

堀 それが先に僕の言つた心理的順序よ。

倉橋 西洋の昔の幼稚園では、目をつぶつて、種んなドロップを食べさせて名をいはせる味覺練習がある。これと重大な差別は、實物を使つて居ない。觀察は何といつても、感覺經驗から入つて行かなければならぬが、實物感を離れぬようにしなくてはならん。こんな細かい注意を考へ

て行けば、多少の特定の時間はあつてもよいらしい。

堀 特定の時間をやらうか。白根さんの組あたりでやつてみようかね。小學校の一年生でやつて骨が折れた。

倉橋 それで、特定の時間がむつかしいで思ひ出したが、特定方案でやらなくちやならぬのは、先生の方案なので、明日これをするとならば、四五日前から子供の眼に觸れるように出して置く。ある所迄は生活觀察になつてゐるものを特定にする。注意はあどろきと共に發生する、とて、ソラー！と覆ひを外すのは……………

堀 それが「猫と鼠」さ、(堀主事の「猫と鼠」の話は今年の文部省の講習にも出席の方はちきさく及びでせう)

倉橋 この夏の講習で話して皮肉だといはれたが、クモの觀察をさせたいなら一週間許り掃除をし

ないであくとクモが巢を張る。そして子供に豫め觀察させて、その凝集した頃に特定觀察を行ふとよい。特に工夫しなくても日常知つて居る物を使へばさうなつて居るんだけれど。むつかしいのは、更めてやれば「知つてら——」をいはれる事だ。何の本には斯うなると書いてあると子供とけんくわしちやいけない。

堀 その時に子供の知らない方面に注意を向ければ澤山。子供の一つ上手うまに出て、觀察しなければならんようにしむける。

倉橋 何時か出た話のように、牛にまゆげがあるのは氣がついて居ないからね。僕などには何うしてくもの巢が張られるものか分らない。

堀 お腹のいぼから糸が出る、脚で縦糸にくつつけて行く。

倉橋 みて分るものなの？ でなくちや云つちやいけない。

堀 五歳の子供、六歳の子供の観る程度で云ふこと。

村上 子供が蟻の巢をぶつとみて居る時に口を出してよろしいものでせうか。

倉橋 何處に興味を持つて居るかが分つてればいい。實際としては先生が興味を持つてやる、一緒にみてやる。

及川 蟻の巢はつゝきますが、机上の一匹は見つめて居りますね。

堀 僕は、その時先生は、文句をいふべきでないと思ふ。又言ひようもない。

倉橋 そこが前に返つて、蟻をみて居ることを蟻で名づけてしまふからいけない。蟻の何處を何うみて居るか分らない。物によつて觀察の要目を定められるのは危険。

堀 蟻と話して居る時があるからね。

倉橋 熟練家は何處を見て居るか見當がつくだらう

ね。

堀 その子供は此處に、あの子供は其處にと分るだらうと思ふね。觀察の型、個性が、おぼろげにも、永の間には見抜く必要がある。

倉橋 同時に、普通一般として、何ういふ風の興味を持つか、東京と田舎とでは、或は海岸では變つて來るか。平均標準が出てくれば、ビク／＼しなくてよい。

堀 その場合に口出ししなくても先生も觀察すればよい。何うせ違つた觀方をして居る。先生の方に引つ張られる。

村上 先生の方だけに興味がある場合に、子供をその中に引き入れてもよろしいのでせうか。

堀 子供に興味のない材料だつたら引き入れようとしても入らない。

倉橋 だが、大體、自然に、先生の持つて居る方にさうなつて行く。

堀 村上君が僕を見習つて龜やみみずに興味を持つて来ると同じさ。及川さんなどはみみずがきらひだからだめだがね、僕も相手をみて教育的にやつて居る。(一同笑)

倉橋 註釋する、みみずを捕つて来る堀先生は、觀察材料になさるんだが、これがなつかしき夫ならば、及川さんだつてね。

堀 始めは逃げたが………

教材の蛇なんかはさう。見ないからますます迷信的になる。蛇だつて可愛いがる人があるんだもの、世話すると可愛くなる。

倉橋 觀察材料は、不斷に子供に交渉あるものが多い。種々な物に交渉出来るように、飼つたり育てたりがよろしいでせう。飼育、栽培を理科の方では、方法上からやつて居るが、幼稚園の方ではもつと外にある。生活の中にある。それから觀察の場合を三様あげた機會捕捉、表現の中

に行ふ、設定觀察の外に考へられる事がある。

(この中に含まると見てもよいが)子供は始終觀察して居るが、先生がいつも立會へないことが多い。幼児が、自宅から幼稚園に通ふ途中を研究しとかなくちやいけない。太郎はサクラ草の野原を通つて来るとすれば「もう近くのサクラ草は咲きまして」と尋ねてやることは注意を引く大きなもの。何をみつゝ、聞きつゝ、幼稚園に来るかは十分用意しなければいけない。觀察用個別地圖といふものをこさへる。

堀 それを下手すると、それだけやつて、観せない觀察になる。

倉橋 むしろ幼稚園としては見てゐる方からやる。

徳久 設定觀察は、どれ位の回数でせうか。

倉橋 年少組と年長組とではちがふ。便宜上回数をきめてみたら、

堀 便宜上だね。時間もちがふ。

倉橋 一週一度は多いかね。

堀 アメリカのネーチュアアーティストは毎日五分

くらゐ。

倉橋 短いからね。根本はきめとく、きめとかんと

先生がズル／＼、遊戯許りやる先生が出来るか
ら。

堀 一週に二三度。

倉橋 小だしにだらしなくするより、何うです。一

週に一度やつてみたら何うです。

堀 材料がなくなる。

倉橋 月に一度ときめちやすくないね。

堀 この土曜日に僕が、やらう。

倉橋 やつてもらつて模範を將來に立てるさ。

菊池 ぢや早速明後日も願ひします。

倉橋 主事さんだつて理科の知識を教へるようのこ

とがあつたら、抗議を申込まなくちやいけない

よ。(笑)

堀 さあ、この邊で切り上げよう。どうもありが

たう。

兒童の教養

富士川游博士著 堀 七 藏

兒童をば善く且つ強く、又我々國民の要求に副ふやうに教養せねばならぬことは誰でも痛切に感ずる所である。之が爲め第一に必要を感ずることは兒童の教養に關する現代の科學的知識の要領である。本書はこの必要に應ずるため中山兒童教養研究所に於て兒童教養に關する通俗科學展覽會に用ひた表紀圖畫寫眞等の類より更に實際に緊要なりと認められるものを選ばれたものである。目次を見れば總説、遺傳、發育、乳兒、幼兒、學齡期兒童、成熟期兒童、器官、榮養、衣服、住居、睡眠、疾病、異常兒童の各項目に亘つて現代に於ける科學的知識の精華を集め簡潔に解説してある。誠に兒童の教養に關する良書。是非熟讀せねばならぬ。特に推奨するに躊躇しない。

(定價金一圓七十錢 發行所 養正書院)